

杉並区産MaaSの今後の方向性について

令和7年1月
杉並区

杉並区産MaaS「ちかくも」が始動

背景・コンセプト（杉並区地域公共交通計画より）

環境負荷が低く、安全で安心な移動サービスが求められる

→デジタルを活用し、1つのサービスとして移動提供

→**新たな移動価値の創出、移動総量の底上げ**（移動需要の喚起）

杉並区地域公共交通計画

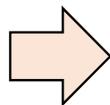
Sustainable
Urban
Mobility
Plan
from Sugiyama

2023
⇓
2030

令和5年3月
杉並区

✓ 区公式LINEから起動

高齢者を含め比較的馴染みやすいツール



✓ 「ちかくも」の由来

～近くへの移動も遠くへの移動も便利に～



- ・令和7年1月8日サービス開始
- ・令和8年度まで実証実験を継続

杉並区産MaaSについて (1)



マイカーではなく公共交通、徒歩、自転車で
杉並区のおでかけと地域交流を活性化していくことを目指す



現在実施中



グリスロとAIオンデマンド交通の
停留所／車両位置が事前にわかる



堀ノ内・松ノ木地区で
AIオンデマンド交通で移動できる



区内のおでかけスポット
への行き方がわかる

利用実績などのデータを蓄積、次年度以降の施策を検討

杉並区産MaaSについて (2)

目的

- 公共交通・自転車・徒歩による移動機会と交流機会を増やすことで、区民のウェルビーイングを向上させ、環境負荷を低減させる

施策

- 区公式ラインからのアプリ経由で、公共交通等の利用促進につながる施策を展開
外出につながる散歩コースの情報提供、停留所付近での交流イベント企画等も同時並行
- 取得した移動・利用データを分析、さらなる移動創出に向け
施策のPDCAを回し続ける
(今後、移動データの取得に関して、交通事業者様にご協力をお願いしたい)



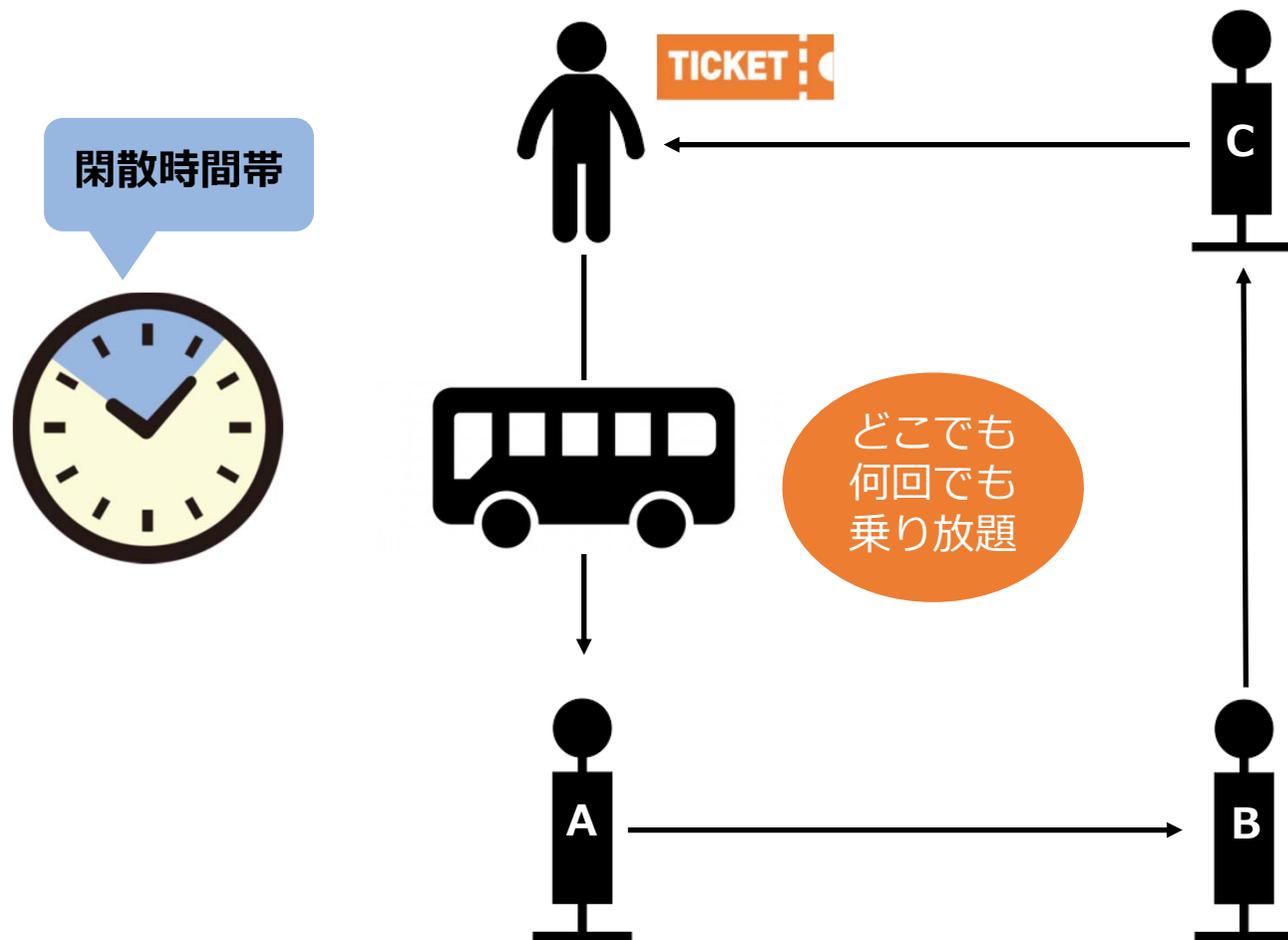
目指す姿

- 交流イベントなど一連の取組で区民の外出意欲が増進し、公共交通全体の需要が増える
- 新しい移動需要の獲得により、
すぎ丸や路線バスなどの利用も増える



実施イメージ1：価格弾力性と移動増の相関性

路線バスの利用が少ない時間帯（閑散時間帯）限定のオトクな乗り放題チケットを販売、
乗り放題チケットの利用実績データにより、どのような移動が増えたのかを検証する。



ターゲット像

- 行動範囲や経路が固定化している方
 - 新しい場所へ行く機会の少ない方
- ※高齢者、障がい者、子育て世帯に多いと仮説

目的

- 既存公共交通の活性化
- 新たな移動の創出
- 区内の移動実態の把握

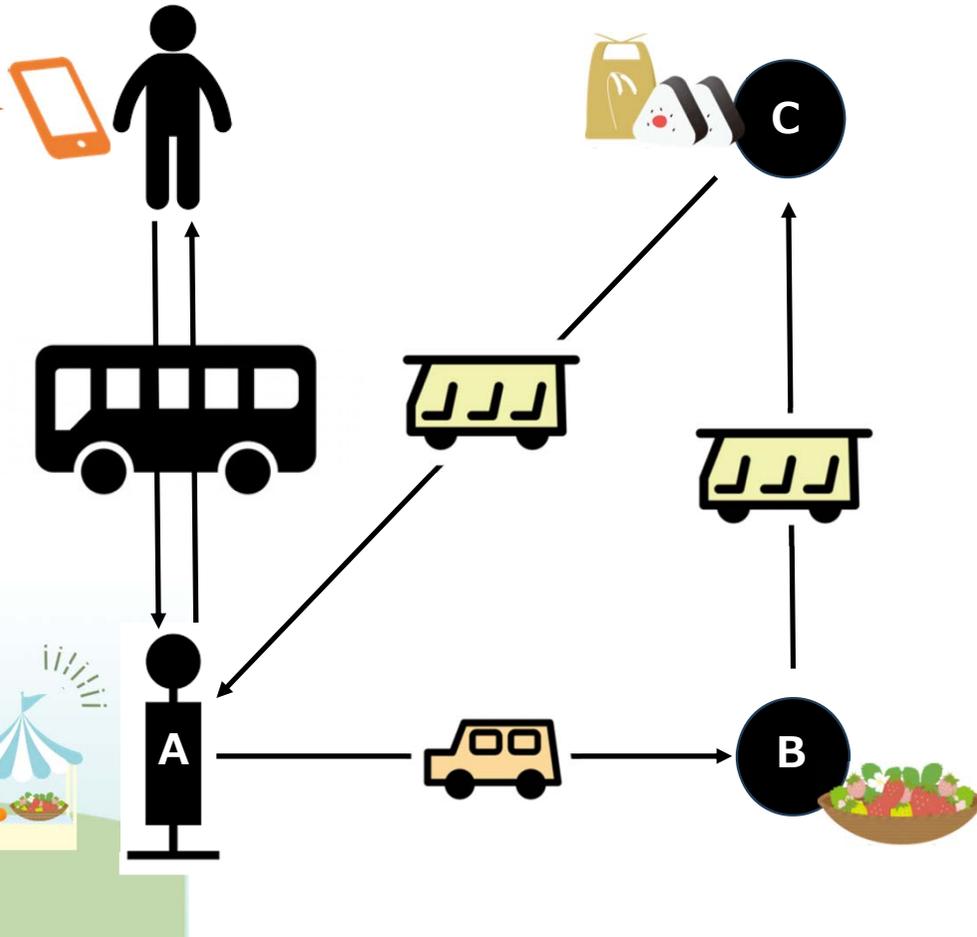
必要なこと

- 既存公共交通の現在の利用実態
(閑散時間帯は何時か等)
- オトクな乗り放題チケットの用意
- おでかけ先のコンテンツの用意
(乗り放題でどんな体験ができるのか)

実施イメージ2：地域イベント開催と移動増の相関性

路線バスとグリスロ／オンデマンド交通の結節点でイベントを開催し、
乗り継ぎがあるか、周遊が生まれるかを検証する

杉並区LINEから
イベント情報も
交通情報も◎



ターゲット像

- お出かけ先に困っている子育て世帯
- 行動範囲や経路が固定化している方
※高齢者、障がい者、子育て世帯に多いと仮説

目的

- 既存公共交通の活性化
- 新たな移動の創出
- 地域コミュニティの活性化

必要なこと

- 結節点の把握
- イベントの用意
- 乗り継ぎ有無の収集
(アンケートや交通系ICカード履歴等)

他地域での事例（世田谷区）

- さらなる沿線地域活性化に向けた取り組みとして、世田谷区の回遊性と利便性の向上を目指した実証実験が今月から開始（これまでの生活では訪れなかった目的地へ足を延ばす、行動範囲を広げるきっかけ作り）
- 東急電鉄世田谷線全線、小田急バス（一部区間）、東急バス（一部区間）を自由に乗り降りでき、LUUPの電動キックボード・電動アシスト自転車（エリア等条件あり）を利用できるデジタルチケットを販売
- 1人 2,000円で、複数の移動手段を料金を気にすること無く自由に組み合わせ利用できる
- モデルコースやスポット情報は、世田谷まちなか観光交流協会が運営する観光情報サイト

杉並区での実施案

販売中のチケット一覧例 チケット購入画面例



- ・ 区の交通事業（すぎ丸、グリスロ、デマンド）を軸とした、地域内他交通モード（鉄道、バス、シェアサイクル、駐輪場）との連携
- ・ 地元商店と連携し、公共交通利用による割引ポイント等の実施
- ・ 健康増進の観点から、区の健康アプリ等との連携
- ・ モビリティ・ハブ設置



「ちかくも」の活用により、データに基づいた、区民・来街者の移動総量の底上げに取り組む

出典：2040年、道路の景色が変わる（国土交通省）